

国際委員会の活動報告

(公社)日本建築積算協会 国際委員長
ターナー&タウンゼント株式会社 シニアディレクター
横澤 正人



当協会の現況 国際委員会について

国際委員会は国際交流の組織的な窓口機能と海外の情報の収集とBSIJの海外への発信機能を担っています。

国際委員会の役割は3つあり、1つは海外の国際基準など積算基準情報や建設コスト情報などの調査、2つめは海外の提携協会との交流、およびグローバル人材の育成、3つめは積算協会から日本およびBSIJについての情報発信です。

国際委員会とYQS部会は5月現在11名の会員で構成しています。今年の夏号でもお伝えしたようにダイバーシティとインクルージョンの観点から女性の参加と支部との連携協会についてのご提案いただいております、会員の皆様には国際委員会へのご関心を持っていただけると幸いです。

ICMSなど国際基準に関する情報収集

ICMS (International Cost management Standard) 国際コスト管理基準の日本語版の作成および説明会の実施を昨年行いました。ICMS第3版は炭素排出量も含んだ基準であり、今年も関連の情報についての調査と発信を行っていく予定です。

PAQS congress 2023への参加

PAQS Congress 2023 (Pacific Association of Quantity Surveyors) このイベントはアジア・パシフィック地域の各国のサーベイヤー積算協会14か国による共同開催のシンポジウムです。BSIJも提携協会であり、国際委員会委員長が会長の名代として参加しています。

本年度はマレーシアで9月22日から26日の5日間(メイン会議は25日、26日の2日間)の日程で行われます。

前半のプレ・コンGRESの3日間で委員長および国際委員会メンバーはPAQSの理事会への参加、

YQSのメンバーは各国のYQSの特別プログラムに参加し、後半のメイン会議2日間は全員で講演会に参加することになっています。

PAQSのResearch Committeeの活動として加盟国のメンバーの情報化のアンケート調査を行い、BSIJにおいても会員の方々にお願いいたしました。本シンポジウムに合わせて研究結果が発表されることになっています。

今後BSIJとPAQSでの情報共有が可能になるように、国際委員会のメンバーの役割を増やしました。PAQSにはResearch Committee以外に全部で4つのCommitteeがあり、BIM committee、Sustainable Committee、Education Committeeがあります。今年からはBSIJの教育委員会、PCM委員会、情報委員会の活動に国際委員会のメンバーが参加し、BSIJとPAQSの活動で情報共有ができるように体制を作りました。

グローバルヤング基金を活用したPAQSへの参加メンバーの選考については、先にダイバーシ

ティとインクルージョンで申しました方針を受け、正副会長会議が国際委員長およびYQS部会長の意見を聞いたうえで決定することとなっておりますが、補助金の設定や、機会均等、PAQS側のYQS活動への人数制限など調整事項もあり、引き続き各支部、および各委員会からご意見をいただき、協会のビジョンに照らして改善していきたいと考えています。

海外積算協会との交流

海外の団体やその会員が、出張で日本を訪れる機会も増えており、3月15日には今年のPAQSのホストを務める、マレーシアの積算協会RISMの役員を表敬を受けました。開催責任者で協会PresidentのNazir Muhamad Nor氏(左から3人目)および政府機関CIDBのState Director, Zainora Zainal女史(左から2人目)の表敬を受け、浦江会長、生島副会長、前田専務理事にご対応をお願いしました。



5月にはシンガポールの積算協会SISVで昨年のPAQSで開催責任者を務め今年Chairmanにご就任されたKin Hoong Wongが来日されましたが、少人数でのアテンドとなりました。いずれの方々もBSIJとより親密な関係構築を希望されており、定期的なWebを活用した理事レベル、YQSレベルでの情報交換会など、今後の活動として検討していきたいと思えます。

RICSとの連携

現在RICSは日本に拠点がないため、日本におけるRICSの活動はシドニーのAPAC地域事務所管轄になっていますが、隔月で東京での交流会を開催しており、共同で開催できるイベントについては情報共有を行っています。ICMS3についての普及活動をBSIJと共同で行いました(下図)。RICSのDirectorのAnil Sawhney氏の講演でICMSの説明がありました。そのほか、RICSのメンバーになるためのダイレクトエントリーについても国際委員会がRICSと情報を交換しています。

まとめ

近年建設投資においてもインバウンドの需要が増えていて、他国のサーベイヤー協会から当協会への問い合わせも増えています。国際委員会の役割もますます増えていくと思えます。